座間市郷土講演会

2023.8.5（土）

座間周辺における鉄道敷設のあゆみと地域

桜美林大学教授　浜田弘明

自己紹介

現在　桜美林大学教授（博物館学）

海老名市文化財保護審議会長、相模原市文化財保護審議会委員、

町田市文化財保護審議会会長、多摩市文化財保護審議会会長など

前職　相模原市立博物館学芸員（人文地理担当）

相模原市史編集委員（近現代部会）2002～2018年

座間市史（民俗・近世通史）、海老名市史、大和市史、綾瀬市史等を執筆

本日のお話

はじめに

1　近代東京西郊の鉄道計画

(1) 明治期東京西郊の鉄道計画

(2) 横浜鉄道から横浜線へ

(3) 幻の鉄道計画　―相武電気鉄道と南津電気鉄道―

2　小田急線の敷設と沿線開発

(1) 小田急線の敷設

(2) 沿線の遊園地計画

(3) 林間都市計画

3　相模鉄道の敷設と砂利採取

(1) 砂利採取と相模鉄道

(2) 相模鉄道と相模線

4　軍都計画と小田急線

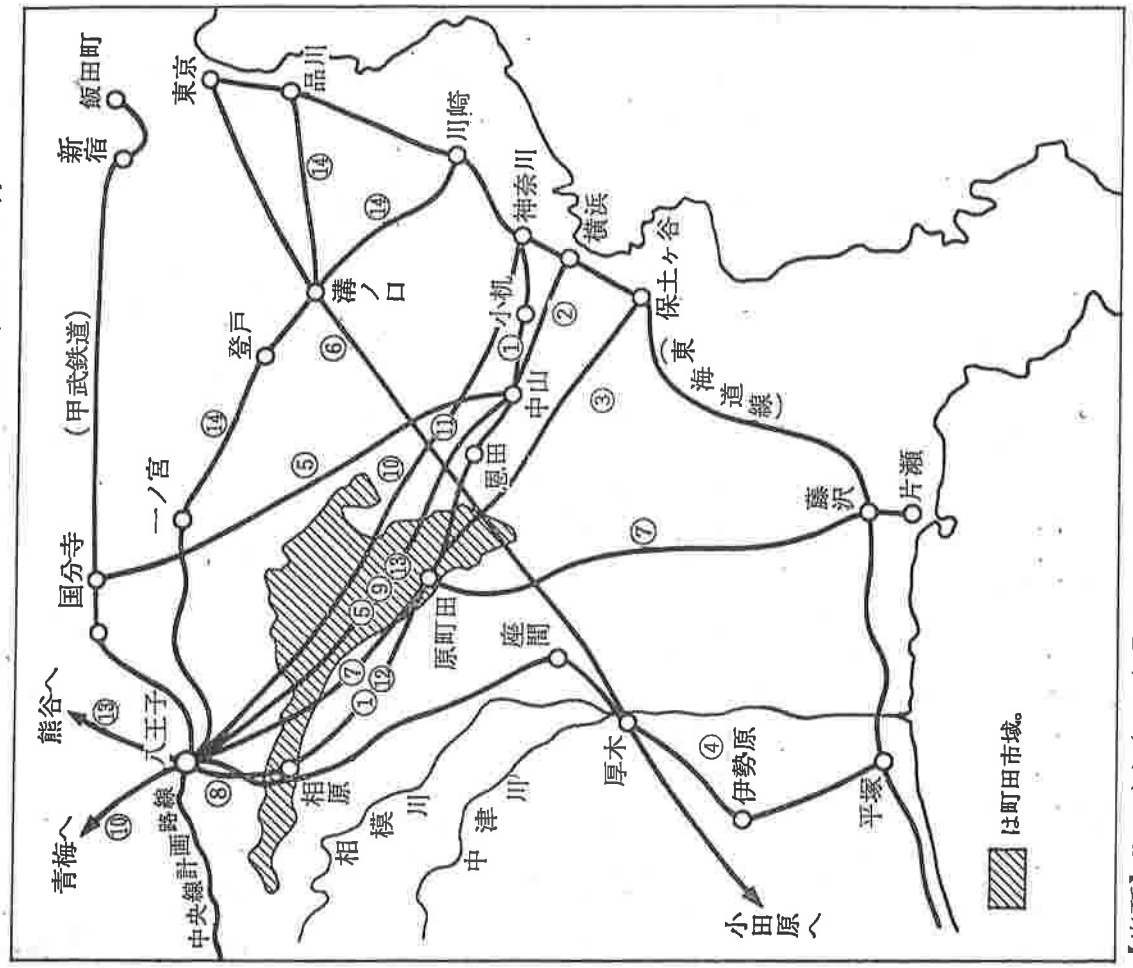
(1) 相模原軍都計画

(2) 2つの「相模原駅」

(3) 軍事施設の建設と鉄道駅

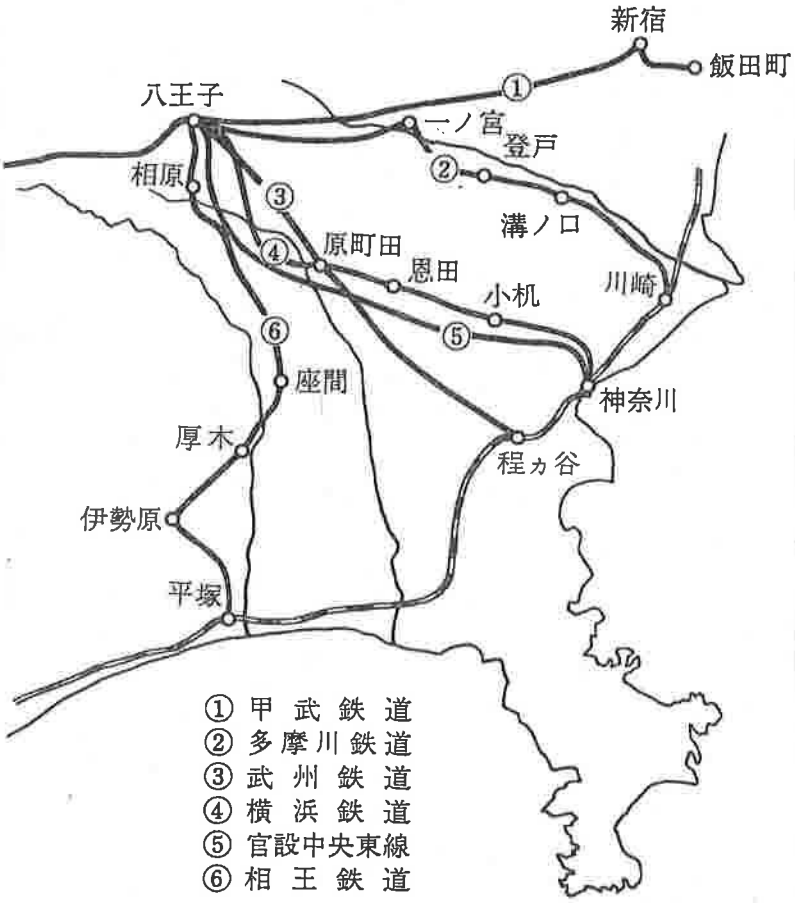
おわりに

図版203　市域をめぐる私設鉄道計画路線図（明治27～30年）



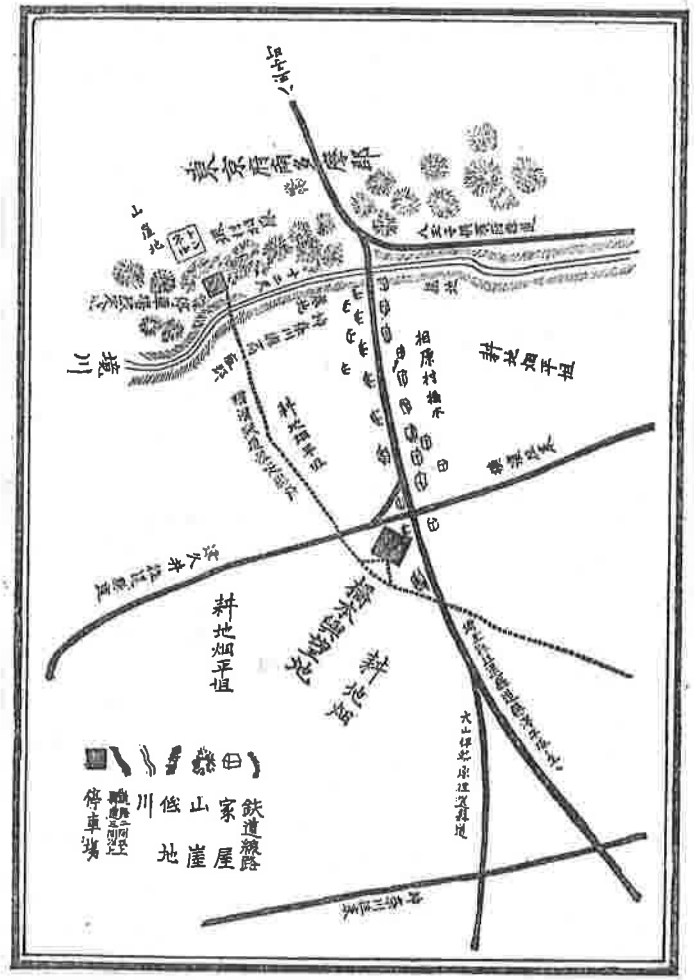
【出所】町田市編(1976)『町田市史　下巻』町田市

図153　八王子と横浜を結ぶ鉄道計画路線図



【出所】相模原市編(1969)『相模原市史　第３巻』

橋本停車場設置陳情書添付図



【出所】相模原市編(1968)『相模原市史　第６巻』

表１　明治中期における東京西郊の私設鉄道出願状況

鉄道会社名	出願年月日	発起人代表名	資本金（万円）	計画路線区間	図番号
横浜鉄道	1894.5.29	原　善三郎	75	八王子～横浜	①
武相鉄道	1894.5.30	雨宮敬次郎	70	八王子～横浜	②
南武鉄道	1894.5.30	伊藤茂右衛門	75	八王子～程ヶ谷	③
相王鉄道	1894.7.18	佐藤貞幹	70	平塚～八王子	④
武州鉄道	1894.11	石山善右衛門	330	熊谷～八王子～横浜	
武州中央鉄道	1895.3.5	雨宮敬次郎	250	千駄ケ谷付近（東京）～小田原	
関東鉄道	1895.4.12	中沢　彦吉	200	芝（東京）～小田原	
京浜電車鉄道	1895.4.18	若尾　逸平	200	汐留町（東京芝）～花咲町（横浜）	
両毛鉄道	1895.9.4	渡辺　洪基	（建設費）250	足利～神奈川	
多摩川鉄道	1895.12.20	青木正太郎	100	八王子～川崎／溝ノ口～品川	⑭
京浜電気鉄道	1895.12.26	岩田作兵衛	160	赤羽橋（東京芝）～横浜	
関東鉄道	1895.12.27	小山田信蔵	不明	八王子～平塚	
南武鉄道	1896.3	田代組（会社）	152	八王子～中山～横浜／中山～国分寺	⑤
関東鉄道	1896.3	不明	200	芝（東京）～小田原	⑥
武相両岐鉄道	1896.5	青木正太郎	125	八王子～神奈川／原町田～片瀬	⑦
八王子鉄道	1896.7	山田　東次	不明	八王子～相原	⑧
八王子鉄道	1896.8.10	川辺　善固	100	八王子～横浜	⑨
甲浜鉄道	1896.10.15	橘川文次郎	250	横浜～吉野（津久井）／厚木～大船	
武相中央鉄道	1897.3.24	雨宮敬次郎	（建設費）248	千駄ケ谷（東京）～小田原	
武蔵鉄道	1897.4.6	柴原　和	200	赤羽（東京芝）～与瀬（津久井）／ 忠生～八王子～五日市／忠生～町田～程ヶ谷	
神王鉄道	1897.4.6	柴原　和	120	神奈川～八王子～五日市	⑩
神奈川鉄道	1897.5.1	徳川篤敬	100	神奈川～八王子	⑪
横浜鉄道	1897.5.17	原　善三郎	150	横浜～八王子（①を計画変更）	⑫
武蔵鉄道	1897.5	上杉茂憲	不明	横浜～八王子～熊谷	⑬
東京鉄道	1897.5.28	森村市左衛門	220	信濃町（東京）～横浜／ 石川（東京）～池上～羽田～川崎大師河原	
京浜電気鉄道	1897.8.16	中野　武営	250	小山町（東京芝）～横浜	
八王子鉄道	1897.12.11	福井　直吉	130	八王子～相原～小原（津久井）	

資料：野田・原田・青木・老川編（1996）『神奈川の鉄道』（p.56）日本経済評論社、町田市史編纂委員会編（1976）『町田市史　下巻』（p.677）町田市（原資料：『衆議院議事速記録』（各回）鉄道省編『日本鉄道史　中編』『横浜市史　第4巻上』ほか）による。

注：『町田市史』では、相王鉄道の出願は1896.3・発起人代表は山田東次、武州鉄道の発起人代表は上杉茂憲、多摩川鉄道の出願は1894、八王子鉄道の発起人代表は徳川篤敬、神王鉄道の区間は青梅まで、神奈川鉄道の発起人代表は上杉茂憲とされている。

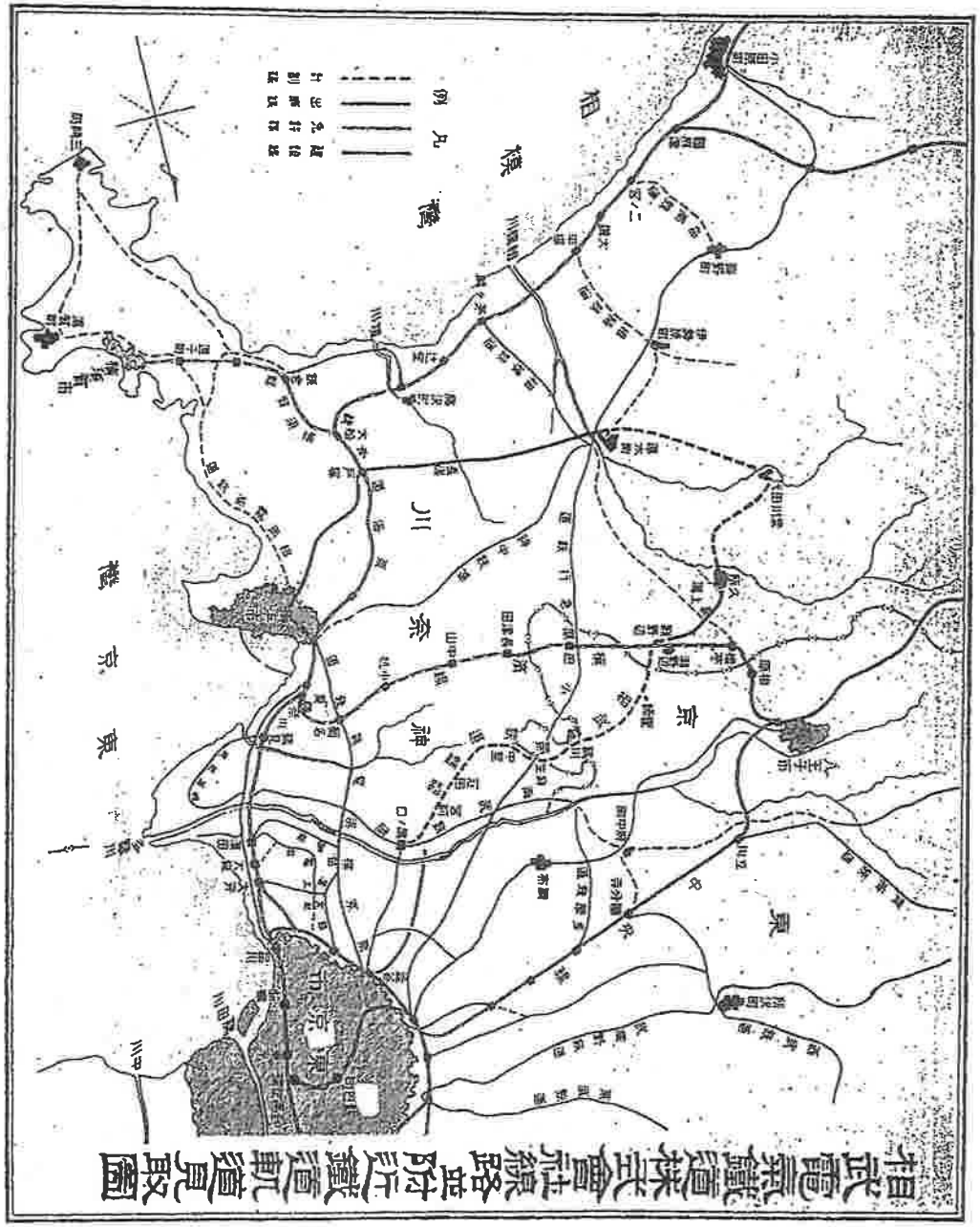
【出所】浜田弘明（2023）「座間市及びその周辺における鉄道関係資料」『座間市史資料叢書　第10巻』

横浜線敷設の歩み

1904(M37). 3.10　横浜鉄道(株)設立
1905(M38). 5.23　国から本免許交付
1906(M39). 6　横浜鉄道起工
1908(M41). 9.23　横浜鉄道開通（相原・橋本・淵野辺・町田駅開業）
1910(M43). 4. 1　鉄道院が借り受け「八浜線（はっぴんせん）」となる
1911(M44).12　臨港部の海神奈川まで貨物線延伸
1917(T 6). 5～ 8 直線区間の原町田～橋本間で広軌試験を実施
1917(T 6).10　国有化され横浜線となる
1925(T14). 4. 4　電化試験開始
1932(S 7).10. 1　東神奈川～原町田間電化
1941(S16). 4. 5　八王子まで全面電化、相模原駅開業
1957(S32).10. 1　矢部駅開業
1967(S42).10.22　菊名～新横浜間複線化
1968(S43). 3.19　東神奈川～小机間複線化
1976(S51). 4.11　「新原町田駅」移転、「町田駅」に改称
1978(S53).10. 2　小机～中山間複線化
1979(S54). 4. 1　中山～長津田間複線化、十日市場駅・成瀬駅開業
7.15　長津田～原町田間複線化／9.14　淵野辺～相原間複線化
1980(S55). 4. 1　原町田駅移転、町田駅開業／9.27　町田～淵野辺間複線化
1984(S54). 2　貨物列車廃止
1987(S62). 4. 1　国鉄分割民営化、JR 発足
1988(S63). 3.13　全線複線化、古淵駅開業、快速運転開始（橋本・町田停車）
1990(H 2). 3.30　京王相模原線橋本駅延伸
1991(H 3). 3.16　相模線電化により八王子直通乗り入れ（2022(R4).3 廃止）
1998(H10). 3.14　相模原駅に快速停車

【資料】

サトウマコト（1995）『横浜線物語』230 クラブ新聞社
サトウマコト（2008）『横浜線 100 年』230 クラブ
野田正穂・原田勝正・青木栄一・老川慶喜編(1996)『神奈川の鉄道』日本経済評論社
朝日新聞出版編（2009・10）『週刊　歴史でめぐる鉄道全路線　国鉄・JR』1（東海道本線）・40（横浜線・相模線）朝日新聞出版
朝日新聞出版編（2010）『週刊　歴史でめぐる鉄道全路線　大手私鉄』（小田急電鉄・相模鉄道）朝日新聞出版
相模原市編(1971)『相模原市史』第 4 巻
相模原市編(2004・08・17)『相模原市史』現代図録編、現代資料編、近代資料編



（鉄道省文書・第3回営業報告書より）

監第三一八〇號

免許狀

南津電氣鐵道株式會社

發起人　大塚郁　外四十名

右申請ニ係ル東京府南多摩郡多摩村ヨリ神奈川縣淵久井郡川尻村ニ至ル鐵道ヲ敷設シ旅客及貨物ノ運輸營業ヲ爲スコトヲ免許ス

地方鐵道法第十三條ニ依ル認可申請ハ大正十六年十一月十九日迄ニ之ヲ爲スヘシ

大正十五年十一月二十日

鐵道大臣　子爵　井上匡四郎

当時の免許状（鉄道省文書より）

【資料】国立公文書館所蔵

相武電気鉄道の歩み

1925(T14). 9　敷設免許取得
1926(T15). 8.21 相武電気鉄道㈱設立、仮測量開始
1926(S 1).12　停車場の決定（淵野辺、上溝、浅間森、四谷石神平、久所、相模河畔）
1927(S 2). 4.23　起工式挙行（上溝）
1928(S 3). 5　工事中断
1936(S11). 3. 4　会社清算事務開始
1944(S19).12　相武電気鉄道㈱会社清算

南津電気鉄道の歩み

1924(T13).12. 3　南津電気鉄道㈱設立
1926(T15).11.20 多摩～川尻間敷設免許取得
1927(S 2).12. 1　第一回株主総会開催
1928(S 3).10.21　起工式挙行（川尻）
1929(S 4). 5　工事中断
1934(S9). 4. 5　南津電気鉄道㈱会社解散許可

【資料】

相模原市編（1971）『相模原市史』第 4 巻
サトウマコト（1999）『幻の相武電車と南津電車』230 クラブ
相模原市編（2017）『相模原市史』近代資料編

小田急線の歩み

1920(T 9). 8.24　利光鶴松らにより東京高速鉄道が小田原までの敷設免許申請
1922(T11). 5.29　小田原急行鉄道本線（現・小田急小田原線）敷設許可
1923(T12). 5. 1　小田原急行鉄道㈱（現・小田急電鉄）設立
1926(T15).10. 4 「藤沢線」（相模大野－藤沢）敷設免許取得
1927(S 2). 4. 1　新宿～小田原間が全線開通
1927(S 2).10.15　全線複線化
1927(S 2).12.27 「片瀬線」（藤沢－江ノ島）敷設免許取得
1929(S4). 4. 1　大野信号所（現・相模大野駅）から分岐し、江ノ島線が開通
1941(S16). 3 .1　鬼怒川水力電気に吸収合併され小田急電鉄と改称
1942(S17). 5. 1　東京横浜電鉄が小田急電鉄・京浜電気鉄道を吸収合併、東京急行電鉄傘下に
1943(S18). 4. 1　海老名国分駅を廃止し、海老名駅を開業（神中鉄道と共用）
1948(S23). 6. 1　小田急電鉄再発足
1973(S48).12.21 海老名駅を現在地に移転
2021(R 3). 4.19　海老名駅にロマンスカー・ミュージアム開館
2023(R 5). 2.27　小田急電鉄海老名本社設置

【資料】14p.に同じ。

出所：『相模原市史　近現代資料編』（二〇一七）

182　**小田急線敷設免許の許可**　／大正9年8月

高速度電気鉄道敷設免許申請書

現今東京ヨリ厚木地方ヲ過キ小田原方面ニ到ル沿道ノ地域ハ文明的交通ノ便全ク欠如シ時運ノ発展ニ伴ハサル状態ニ有之依テ今回東京ヨリ小田原ニ至ル高速度電気鉄道ヲ計画シ公衆ノ利便ヲ図リ申度候間右敷設ノ儀免許被成下度附属書類及図面相添へ此段奉願候也

大正九年八月廿四日

184　**大和村の遊園地　計画纏る**　／大正15年7月

大和村の　遊園地

計画纏る

小田原急鉄会社の大和村遊園地の計画は高下才助、長谷川彦太郎、古木民蔵氏等で十日及十二日の二回に亘り地主五十三名の会合の上解決した総坪数実に七十二万坪で坪九十銭地上権附で売買契約成立同時に江の島線は原町田より分岐して下鶴間山王原の青山街道沿線に尚公所に各停車場を設置することになり九月着工来春四月には公開する予定なるも大野村中和田にも設置の計画で目下交渉中

（『横浜貿易新報』大正15年7月16日付）

185　**中和田遊園地　二十万坪決定**　／大正15年7月

中和田遊園地

二十万坪決定

小田原急鉄会社の大和村に遊園地計画は七十二万坪の土地を買収契約をしたが大野村中和田にも二十万坪の遊園地を設く可く交渉中の処同所岩本信行、古木太一氏等の努力で地主側を土地係と十七日会合し買収契約成立したので九月頃着工の予定だと

（『横浜貿易新報』大正15年7月18日付）

186　**皆原へ遊園地**　／大正15年10月

皆原へ遊園地

座間村字皆原方面に遊園地三十万坪を新設すべく小田急会社と関係者と交渉進行中であると

（『横浜貿易新報』大正15年10月3日付）

191　**県営運動場を小田急が引張る　江の島支線都市計画地を提供**　／昭和4年4月

県営運動場を小田急が引張る

江の島支線都市計画地を提供

十万円投げ出すと声明

県営運動場は茅ヶ崎町に略決定した模様であるが此程小田原急行鉄道会社では江の島支線沿線の大和、大野、座間各村

都市計画地を県の希望に委せて敷地に提供し工事費として十万円を寄附する旨を声明した茅ヶ崎町は敷地の土盛工事の難局があるので或は敷地変更になるやも知れず

労力は一切地元青年の奉仕すると云ふ事になり同地方でも岩本、高下両県議を介して猛烈なる招致運動を行ふことになった

（『横浜貿易新報』昭和4年4月24日付）

192　**大野村中和田へ　大運動場計画**　／昭和5年5月

大野村中和田へ

大運動場計画

小田原急行鉄道では江の島支線東林間都市中央林間都市両駅間の沿線大野村中和田に約十万坪を借地して大運動場を設ける計画で目下関係地主に交渉中であると

（『横浜貿易新報』昭和5年5月5日付）

193　**林間駅附近へ　十三万坪で住宅地　盛大な起工式を挙ぐ**　／昭和15年8月

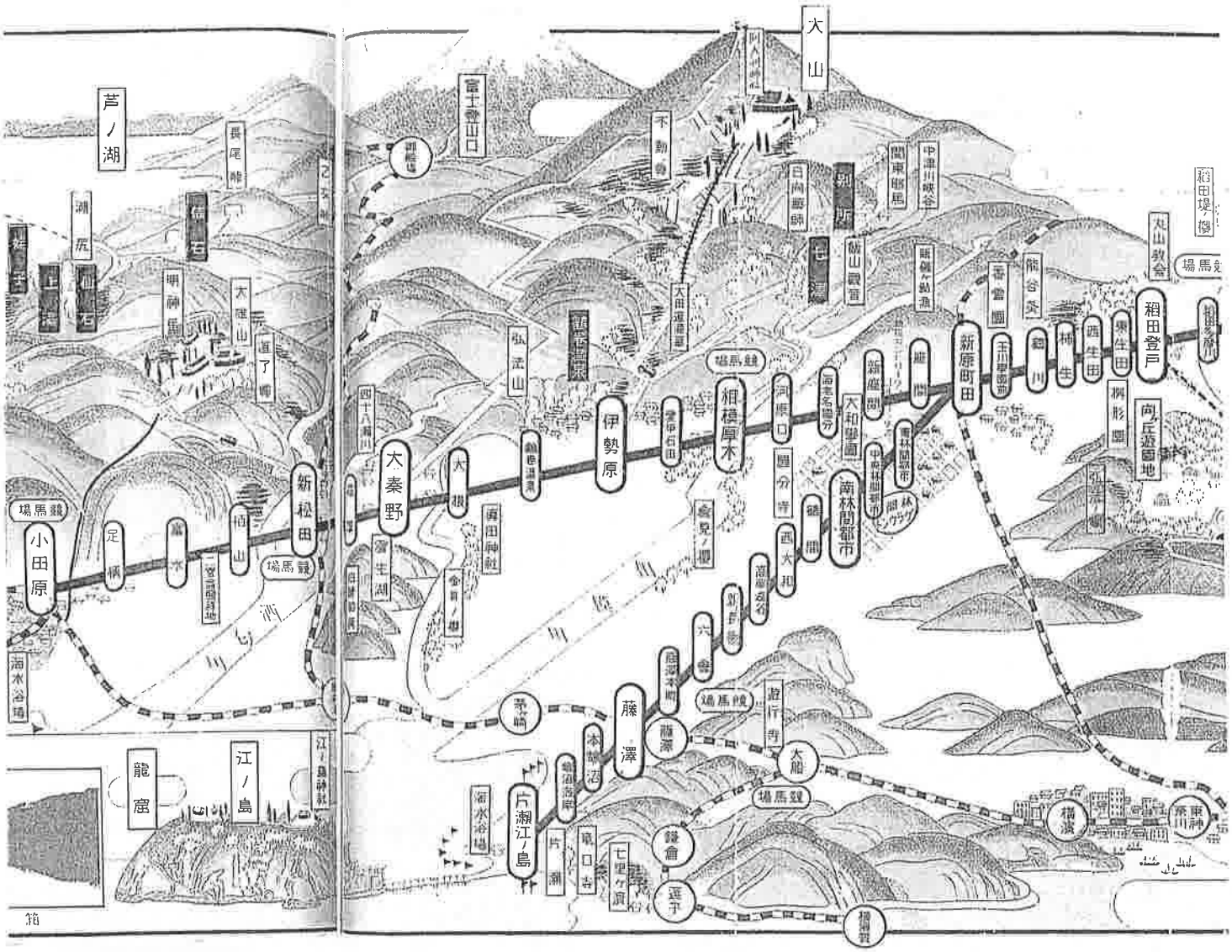
林間駅附近へ

十三万坪で住宅地

盛大な起工式を挙ぐ

小田急では大野村地内東林間駅附近十三万坪を住宅地として道路其他の文化施設をなす事になり、湘南工業株式会社が工事を請負ひ、三日午前十一時より起工式を行った

（『横浜貿易新報』昭和15年8月5日付）

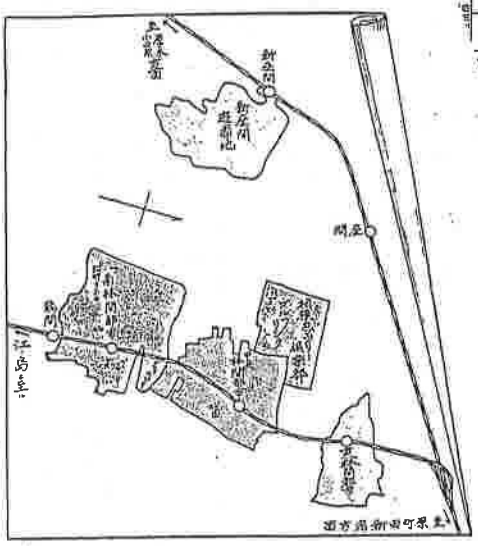


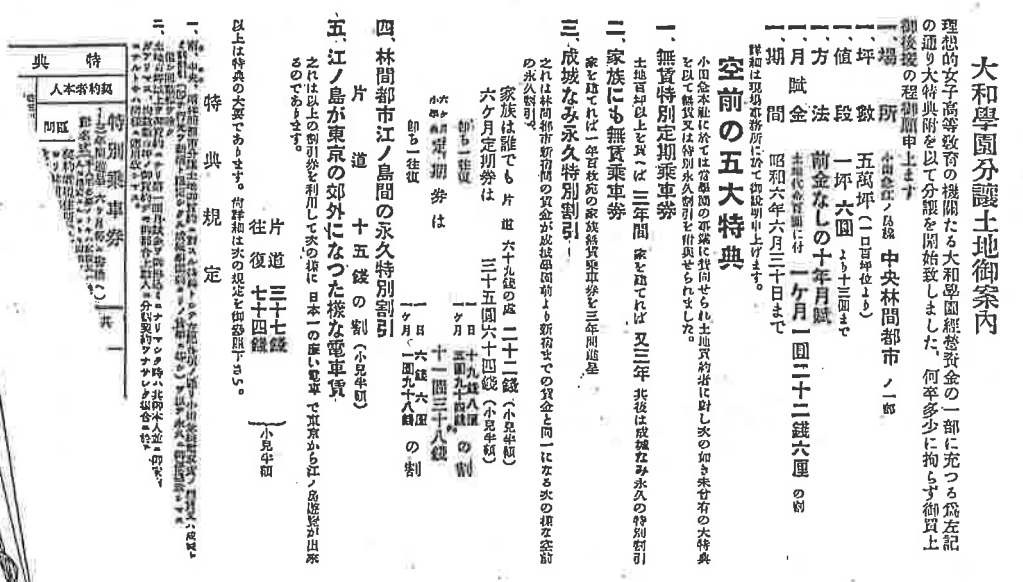
○ 「沿線名所案内」
小田原急行鉄道
1933 前後

現在の駅名▽小田原線：大秦野→秦野　大根→東海大学前　相模厚木→本厚木　河原口→厚木　海老名国分→（廃止して南寄りに海老名駅を設置）　新座間→座間　座間→相武台前　新原町田→町田　西生田→読売ランド前　東生田→生田　稲田登戸→稲田多摩川→登戸　江ノ島線：六会→六会日大前　新長後→長後　西大和→大和　南林間都市→南林間　中央林間都市→東林間　東林間都市→東林間

【出典】今尾恵介解説『全國鐵道旅行繪圖』けやき出版（2011）

図１　林間都市位置図





大和學園分譲土地御案内

理想的女子高等教育の機関たる大和學園經營資金の一部に充つる爲左記の通り大特典附を以て分譲を開始致しました、何卒多少に拘らず御買上御後援の程御願申上ます

一、場所　小田急ノ島線　中央林間都市ノ一部
一、坪數　五萬坪（一口百坪位より）
一、値段　一坪六圓より十三圓まで
一、方法　前金なしの十年月賦
一、月賦金　土地代金百圓に付一ケ月一圓二十二錢六厘の割
一、期間　昭和六年六月三十日まで
詳細は現場事務所に於て御説明申上げます。

空前の五大特典

小田急本社に於ては當學園の事業に賛同せられ土地買約者に對し次の如き未曾有の大特典を以て無償又は特別永久割引を御與せられました。

一、無賃特別定期乘車券
土地百坪以上買へば三年間　家を建てれば又三年　北後は成城なみ永久の特別割引

二、家族にも無賃乘車券
家を建てれば一年百枚宛の家族特賃乘車券を三年間進呈

三、成城なみ永久特別割引
之れは林間都市新物間の賃金が此後當園前より新宿までの賃金と同一になる迄の御方全部の永久割引

家族は誰でも　片道　六十九錢の處　二十二錢（小兒半額）
六ケ月定期券は　一ケ月　十九錢八厘の割　三十五圓六十四錢（小兒半額）
一ケ月　三圓九十四錢
六ケ月乘車券は　一ケ月　十一圓三十八錢
一ケ月　六錢六厘
一ケ月　一圓九十八錢　の割

四、林間都市江ノ島間の永久特別割引
片道　十五錢の割（小兒半額）

五、江ノ島が東京の郊外になつた樣な電車賃
之れは以上の割引券を利用して次の樣に日本一の廉い電車で東京から江ノ島遊覧が出來るのであります。
片道　三十七錢
往復　七十四錢　小兒半額

以上は特典の大要であります。尚詳細は次の規定を御參照下さい。

特典規定

一、中央林間都市小田急線ノ駅ノ小田急線沿線ノ駅ノ間ノ特別乘車券ノ有効期間ハ六箇月トシ其ノ期間ノ起算日ハ其ノ乘車券ノ發行日ヨリ起算シ其ノ期間ノ末日ハ其ノ乘車券ノ發行日ノ翌日ヨリ起算シ其ノ期間ノ末日ノ翌日ヨリ起算シ其ノ期間ノ末日ノ翌日ヨリ起算シ其ノ期間ノ末

相模鉄道敷設の歩み

1917(T 6).12. 2　神中鉄道㈱設立 、同 12.18　相模鉄道㈱設立

1926(T15). 5.12　神中鉄道（現・相模鉄道本線）が二俣川～厚木間開通

1929(S 4). 2.14　神中鉄道が西横浜まで延伸

1941(S16).11.25　相模国分（廃止）～海老名（開業）間開通

1943(S18). 4. 1　神中鉄道が相模鉄道と合併し、神中線、相模線となる

　　同年　相模大塚駅が東方へ移転

1946(S21). 3. 1　柏ヶ谷駅開業　→　翌月　大塚本町駅に改称（1975. 8.16 廃止）

1974(S49). 3.28　全線複線化

1975(S50). 8.17　さがみ野駅、かしわ台駅開業

【資料】

相模原市編（1971）『相模原市史』第 4 巻、相模原市編（2017）『相模原市史』近代資料編

野田正穂・原田勝正・青木栄一・老川慶喜編(1996)『神奈川の鉄道』日本経済評論社

サトウマコト（2000）『JR 相模線物語』230 クラブ

朝日新聞出版編（2010）『週刊　歴史でめぐる鉄道全路線　大手私鉄』（小田急・相鉄）

広岡友紀（2014）『相模鉄道　相鉄の過去・現在・未来』JTB パブリッシング

相鉄ホールディングス（2018）『相鉄グループ 100 年史』

相模線敷設の歩み

1921(T10). 9.28　相模鉄道が砂利採取線として茅ヶ崎～寒川～川寒川（後に廃止）間開通

1926(T15). 7.15　相模鉄道が寒川～厚木間開通

1931(S 6). 4.29　相模鉄道が茅ヶ崎～橋本間全通

1936(S11). 1.15　横浜線経由で八王子へ乗り入れ

1943(S18). 4. 1　神中鉄道が相模鉄道と合併し、相模鉄道相模線となる

1944(S19). 6. 1　相模鉄道が国有化され相模線となる

1949(S24). 6. 1　日本国有鉄道発足

1984(S59). 4. 1　西寒川線廃止

1987(S62). 3.21　厚木～入谷間に海老名駅開業

1987(S62). 4. 1　国鉄分割民営化、JR 東日本発足

1991(H 3). 3.16　全線電化、八王子直通運転開始（2022. 3.11 廃止）

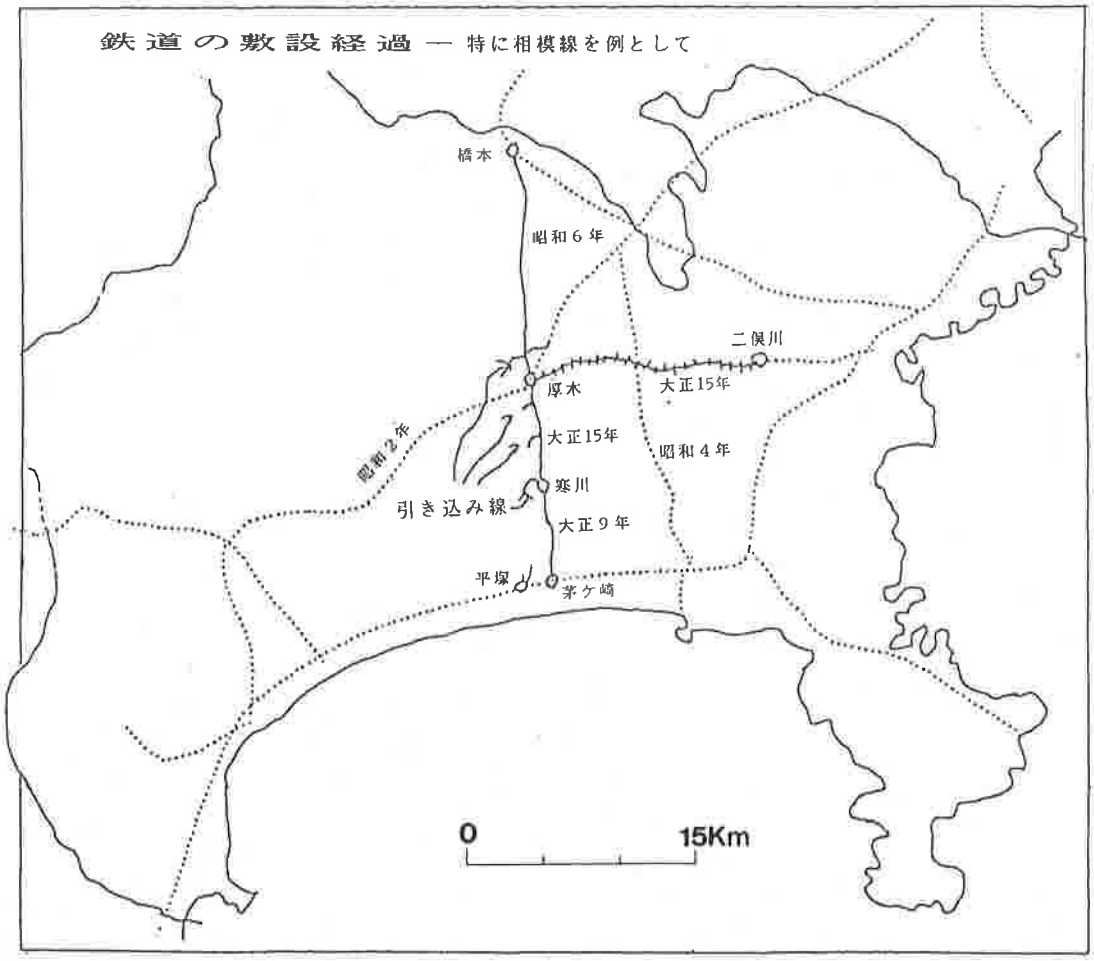
【資料】

野田正穂・原田勝正・青木栄一・老川慶喜編(1996)『神奈川の鉄道』日本経済評論社

サトウマコト（2000）『JR 相模線物語』230 クラブ

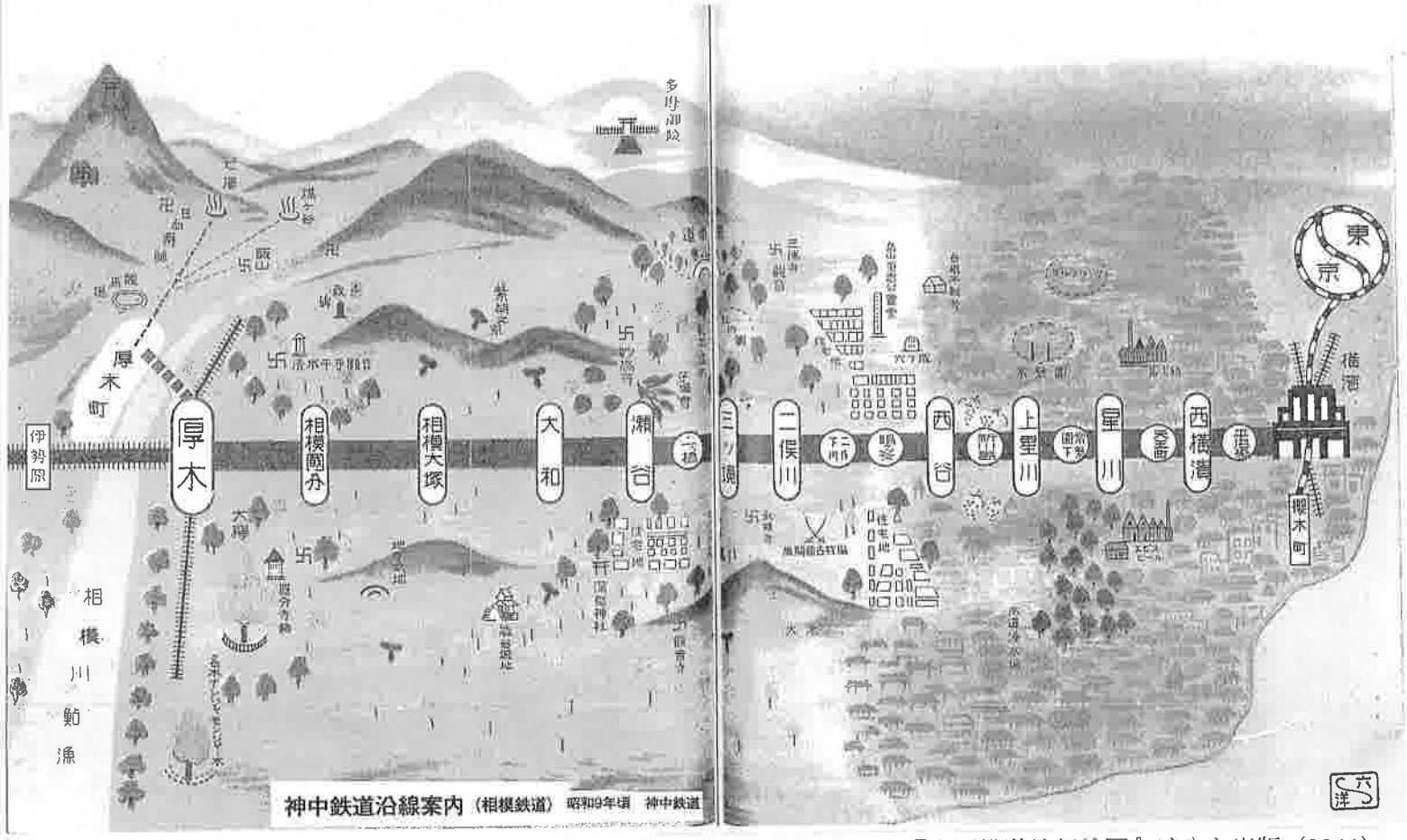
朝日新聞出版編（2009・10）『週刊　歴史でめぐる鉄道全路線　国鉄・JR』1（東海道本線）・40（横浜線・相模線）朝日新聞出版

山田亮・生田誠（2019）『相模鉄道　街と鉄道の歴史探訪』フォト・パブリッシング



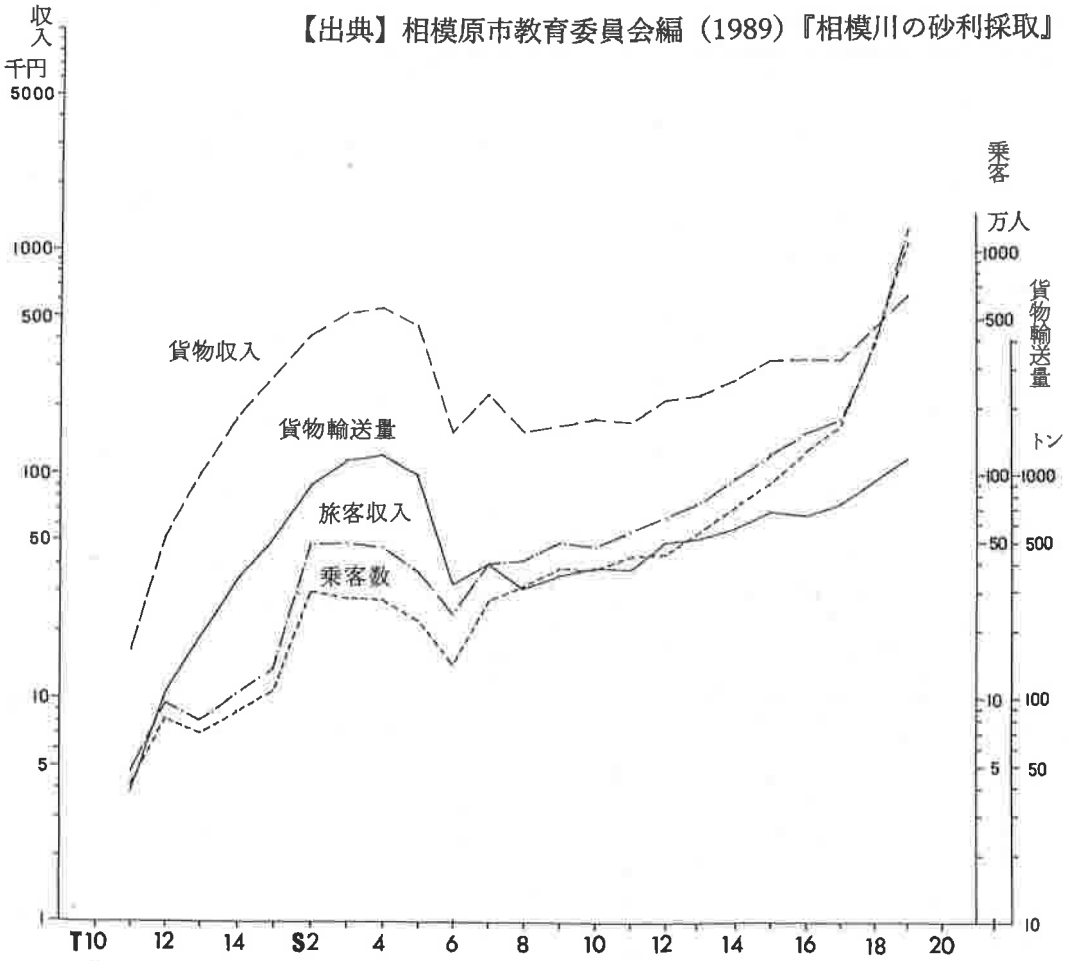
第12図　引込み線の分布

資料：昭和49年度海老名市教職員研修資料より



【出典】今尾恵介解説『全國鐵道旅行繪圖』けやき出版（2011）

【出典】相模原市教育委員会編（1989）『相模川の砂利採取』



第７図　相模鉄道の運輸成績

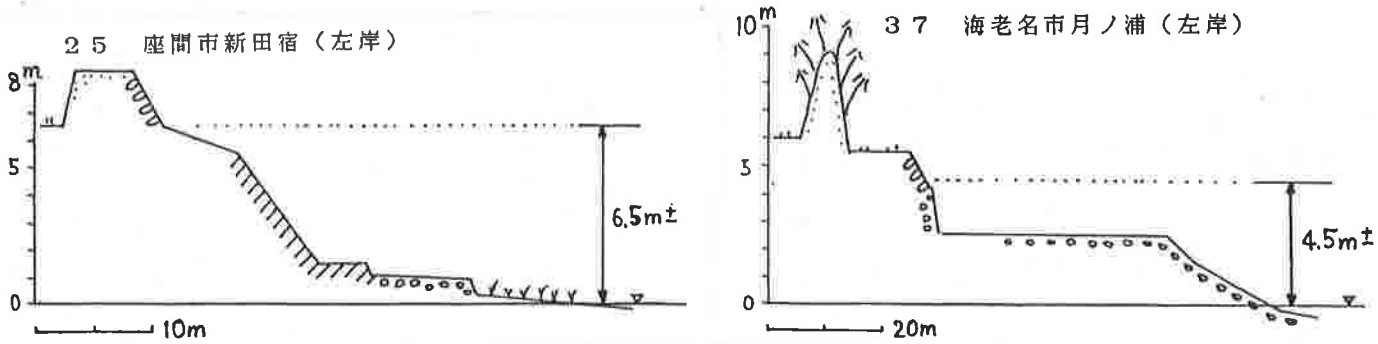
注）　前年６月より当年５月までの年間数量を示す。

資料：相模鉄道㈱（1958）『相模鉄道 40 年史』によって作成。

第10表　相模鉄道（株）の砿区拡大の推移

年　　月	地　　域　　名
大正12（1923）.4	寒川村寒川、川寒川、四ノ宮、外神田
昭和 3（1928）.5	海老名村中新田
4（1929）.6	寒川村倉見
4（1929）.9	有馬村門沢橋
9（1934）.上	寒川村河原
10（1935）.1	新磯村新戸、有馬村門沢橋、座間村座間
11（1936）.2	寒川村倉見、依知村山際、新磯村新戸、海老名村上郷
12（1937）.8	座間村座間
12（1937）.12	寒川村倉見
13（1938）.2	海老名村上郷、相川村酒井

資料：相模鉄道㈱（１９５８）『相模鉄道40年史』による。



第７図(2)　相模川河岸の横断面図

相模線の駅の変遷

［相武台下駅］

1931(S 6). 4.29　「座間新戸駅（停留場）」として開業

1937(S12). 9.30　陸軍士官学校が座間に移転

1938(S13)　「陸士前駅」に改称

1940(S15).11. 1　「座間町駅」に改称

1940(S15).11.15　「相武台下駅」に改称

［本座間駅］

1931(S 6). 7. 1　開業

1944(S19). 5.31　廃止（6.1 に国有化）

［入谷駅］

1935(S10). 6.23　開業（砂利運搬用）

1944(S19). 6. 1　国有化、旅客駅へ

［上今泉駅］

1931(S 6). 4.29　開業

1944(S19). 5.31　廃止（6.1 に国有化）

【資料】

野田正穂・原田勝正・青木栄一・老川慶喜編(1996)『神奈川の鉄道』日本経済評論社

サトウマコト（2000）『JR 相模線物語』230 クラブ

朝日新聞出版編（2010）『週刊　歴史でめぐる鉄道全路線　国鉄・JR』40（横須賀線・京浜東北根岸線・横浜線・相模線）朝日新聞出版

海老名市教育委員会（2023）『えびな近代鉄道物語』海老名市温故館企画展パンフレット

座間市教育委員会（2023）『谷田睦美家文書―鉄道関係史料―』座間市史資料叢書 10

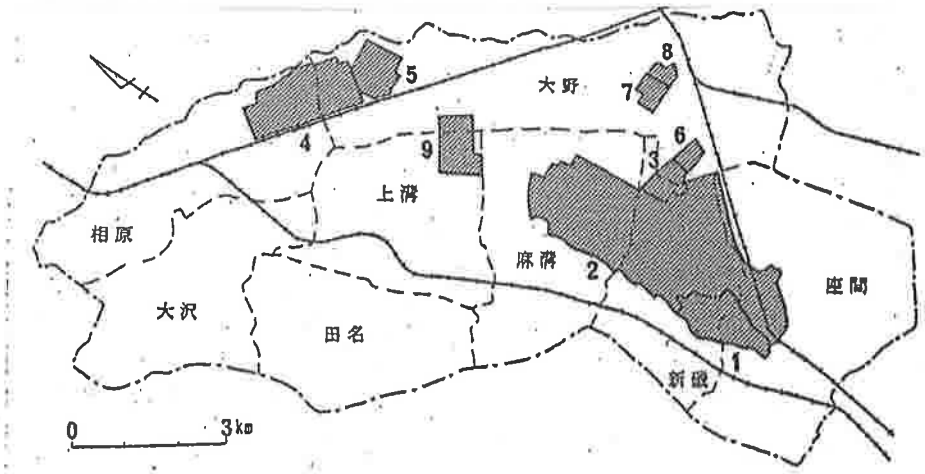
参考地図2　昭和一六（一九四一）年座間周辺鉄道図

（【神奈川の鉄道96】山田俊明論文「相模野の主要軍関係施設分布図」に加筆修正）

参考地図1　昭和六（一九三一）年座間周辺鉄道図

（【神奈川の鉄道96】山田俊明論文「相模野の主要軍関係施設分布図」に加筆修正）

【出典】『相模原軍都計画と地域変化』相模原市教育委員会（1992）



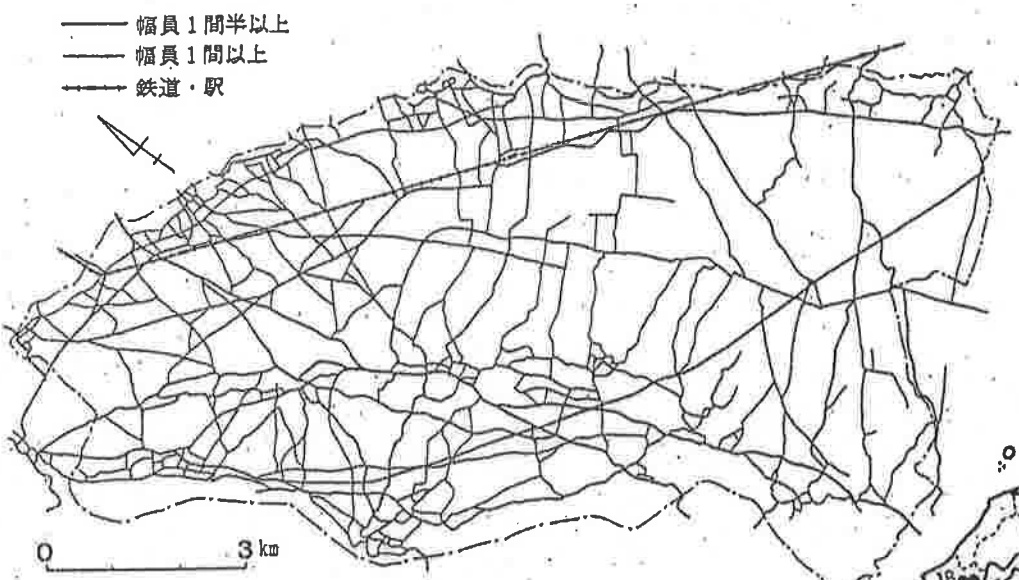
第11図　相模原地域の軍事施設分布

資料：『相模原市史』第４巻口絵より作成。

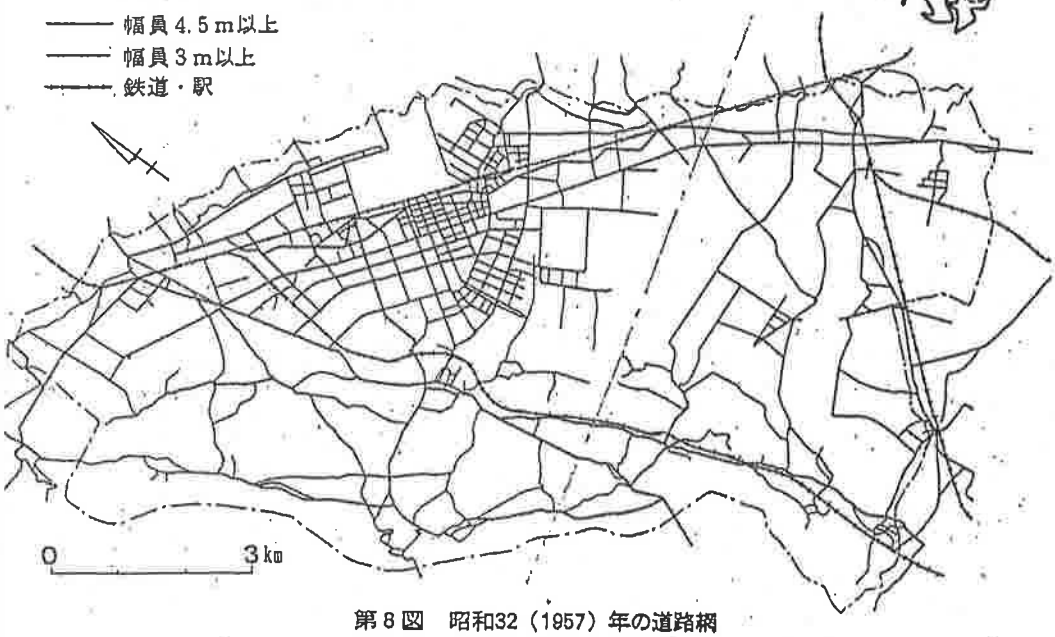
第11表　相模原地域の軍事施設一覧（第11図参照）

No.	進出年月	軍事施設名
1	昭和12年９月	陸軍士官学校
2	12年９月	同上練兵場
3	13年３月	臨時東京第三陸軍病院
4	13年８月	相模陸軍造兵廠
5	13年10月	陸軍兵器学校
6	昭和14年１月	電信第一連隊
7	14年５月	陸軍通信学校
8	15年３月	相模原陸軍病院
9	18年９月	陸軍機甲整備学校

資料：『相模原市史』第４巻。

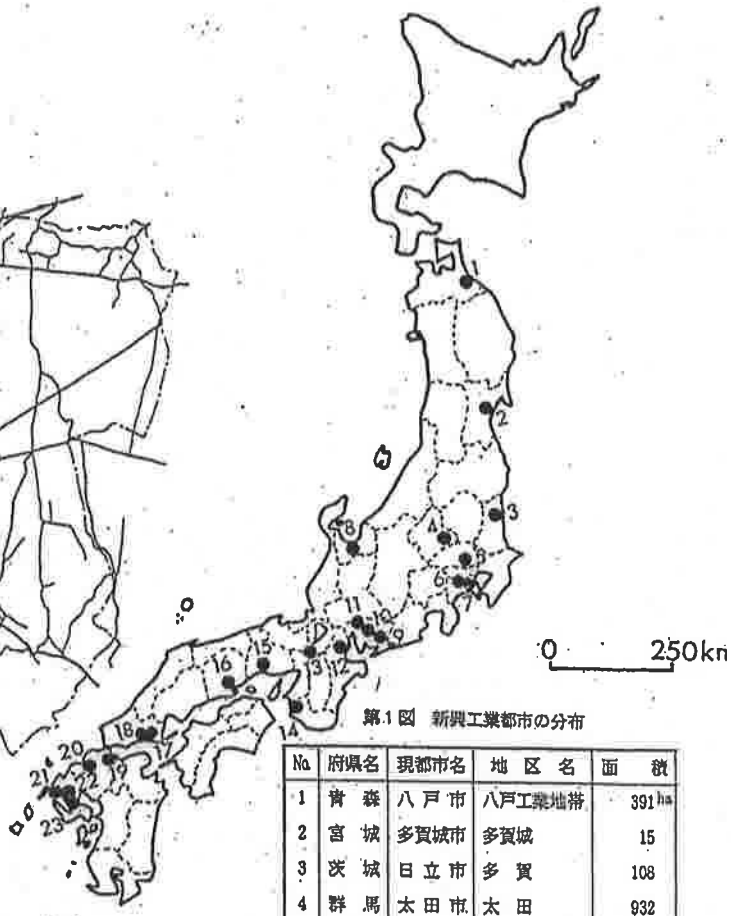


第４図　昭和２（1927）年の道路網



第８図　昭和32（1957）年の道路網

資料：越沢明（1987）「戦時期の住宅政策と都市計画」『年報・近代日本研究９』（山川出版社刊）P.277による。



第１図　新興工業都市の分布

No.	府県名	現都市名	地区名	面積
1	青森	八戸市	八戸工業地帯	391ha
2	宮城	多賀城市	多賀城	15
3	茨城	日立市	多賀	108
4	群馬	太田市	太田	932
5	埼玉	川口市	川口	474
6	神奈川	相模原市	相模原	1,594
7	〃	大和市	大和	620
8	富山	富山市	東岩瀬	386
9	愛知	豊川市	豊川	545
10	〃	春日井市	春日井	95
11	〃	豊田市	挙母	220
12	三重	四日市市	臨海	518
13	京都	宇治市		684
14	和歌山	和歌山市	河西	27
15	兵庫	姫路市	広	991
16	岡山	岡山市	福浜	99
17	山口	光市	室積	71
18	〃	〃	光	208
19	福岡県	苅田町	苅田	437
20	〃	福岡市	春日原	460
21	長崎県	佐世保市	相浦	20
22	〃	大村市	大村	23
23	〃	川棚町	川棚	250
	合計		23地区	9,168

小田急線の駅名の変遷

［相模大野駅］

1929(S 4). 4. 1　信号所として発足、江ノ島線の分岐点

1938(S13). 4. 1　陸軍通信学校の開設とともに「通信学校駅」を開設

1940(S15). 3　原町田陸軍病院開院。相模原なのに「原町田」と命名

1941(S16). 1. 1　「相模大野駅」に改称

［小田急相模原駅］

1938(S13). 3. 1　臨時東京第三陸軍病院最寄り駅として「相模原駅」を開業

1941(S16). 4. 5　国鉄横浜線に軍都計画の一環として新駅「相模原駅」を開業

小田急線の「相模原駅」は、「小田急相模原駅」に改称

［相武台前駅］

1927(S 2). 4. 1　「座間駅」として開業

1937(S12). 9.30　陸軍士官学校移転に伴い、「士官学校前」に

1937(S12).12　行幸に際し天皇が、この地を「相武台」と命名

1941(S16). 1. 1　「相武台前駅」に改称

［座間駅］

1927(S 2). 7.28　「新座間駅」として開業

1937(S12). 7. 1　「座間遊園駅」に改称

1941(S16).10.15　「座間駅」に改称

［海老名国分駅］

1927(S 2). 4. 1　開業

1943(S18). 3.31　廃止

［海老名駅］

1941(S16).11.26　神中鉄道駅として開業

1943(S18). 4. 1　小田急駅開業

1973(S48).12.21　現在地に移転

［厚木駅］

1927(S 2). 4. 1　「河原口駅」として開業

1944(S19).6.1　相模鉄道線の国有化に伴い、両線の駅を連絡して「厚木駅」に改称

［本厚木駅］

1927(S 2). 4. 1　「相模厚木駅」として開業

1944(S19).6.1　「本厚木駅」に改称

【資料】

相模原市編（1971）『相模原市史』第４巻、相模原市編（2017）『相模原市史』近代資料編

小田急電鉄編（1980）『小田急 50 年史』

野田正穂・原田勝正・青木栄一・老川慶喜編(1996)『神奈川の鉄道』日本経済評論社

朝日新聞出版編（2010）『週刊　歴史でめぐる鉄道全路線　大手私鉄』（小田急・相鉄）